

教区通信

ふくおか

2026(令和8)年7月1日発行

Vol.149

発行

「御同朋の社会をめざす運動」
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ **絆** から、広がる **ご縁** へ

— From tying bonds to great encounters —



▲ 本願寺の唐門

P2 仏教壮年会連盟 幹部研修会
P2 寺族婦人会連盟 記念講演
P3 第41回 全国教誨師大会
P4 門徒推進員連絡協議会 第2回全員研修会
P4 第44回 少年連盟中央研修会

P5 福岡教区「非戦・平和を学ぶ研修会」
P6 園見学並びに
第2回 園長・後継者研修会
P7 法話「命の行先」
P8 2026(令和8)年度 職員職務分担表

仏教壮年会連盟 幹部研修会

仏教壮年会連盟 副理事長

西^{にし} 英治^{ひではる} (遠賀組^{おんがそ} 安照寺^{あんしょうじ})

「朋友」・「同朋」の意味を一から考えていくと、実践運動中央委員の郡島朋昭さんをご講師にお迎えして、『朋友』と『同朋』、私の願いと仏の願いというテーマで幹部研修会を行いました。

浄土真宗の教章(私の歩む道)をもとに、「朋友」とは志を同じくして同じ学ぶ仲間であり、「同朋」とは同じ念仏の教えをいただく仲間、阿弥陀仏に願いをかけられたすべてのいのちであるとお話しをいただきました。これを踏まえて班別話し合いのテーマとして、

① 浄土真宗における「朋友」とはどんな仲間だと思いますか？

② その仲間を増やすにはどのようなこと(現実的な研修内容や取り組み)が必要でしょうか？

が設定されました。

そして、結論を出すための話し合いではありません。互いの意見を聞き、語り合うことでそれぞれが今後の糧とするためとお考えくださいとのお話をいただき、話し合いを行いました。

②については、落語会、野球観戦、お寺めぐりフィールドワーク、外部有識者を招いての講話など様々な意見が出たのですが、ご講師のお話しを振り返ると、今一度、仏教として浄土真宗のみ教えを基本的なところからお聴聞し、学びを深める機会となるような「朋友を広げる研修会」とするため、次年度へ向けて理事の皆さんで考えていけたらと思いました。

寺族婦人会連盟 記念講演

佐竹^{さたけ} 恭子^{きょうこ} (遠賀組^{おんがそ} 恩光寺^{おんこうじ})

五月十九日、寺族婦人会連盟総会記念講演において、僧侶でありシンガーソングライターとして活躍されている、やなせなな“さん”のご法話を聴聞させていただきました。始まりはご讃題ではなく、透き通る歌声と音楽でした。幼き頃、おばあさまとの朝夕のお勤めが嫌で逃げ出したかったこと、お寺の跡取りとして宗門校で学びつつも、もやもやとしたまま心がついていかなかった日々のこと。経験のある心の内や悩みを赤裸々に語られるお話に、親近感を感じていきました。

自坊に戻られ、音楽活動も精力的に行われていた日々の中での突然のご自身の大病、さらには一緒に音楽活動を行ってこられた唯一無二のご友人の大病と死別までの悲しき日々。お話しの合間合間に歌われていく楽曲はどんどん深く慈愛に満ち、心にじんわりとしみ込んでいきました。

私自身、今年のはじめに大切な友人を大病で亡くしかけたということもあり、涙が思わずこぼれてしまいそうになりました。幸い私の友人はいのちのご縁をいただき、今は回復に向かっていますが、ご友人を亡くされた講師がお話しされた死の向こうにあるまた出遇える世界のお話は、暖かく深く、心を動かされずにはいられませんでした。

終わりに近づく中で、講師の猫のお話しとなりました。私も今現在、地域猫活動に携わっていることから、保護猫募金の為に絵本を出版されている講師にますます親近感をもちました。すべてのお話しが講師の等身大のお姿で、自身がお育ていただいた南無阿弥陀仏のお話しを歌を通して伝えてくださる、やなせなな“さん”のご法話に出遇えてよかったと思えたご縁でありました。

第四十一回全国教誨師大会に参加して

本派矯正教化連盟 九州管区中央委員 岡本 明了(早良組 西宗寺)

五月二十六日～二十七日、第四十一回全国教誨師大会が大谷光淳総裁(門主)ご臨席のもと、城山ホテル鹿児島にて行われました。

大会テーマは「何のために生きるのか」～一人ひとりの「生きる」に寄り添う～でした。各教宗派を超え全国各地より三百名を超える参加者と、五十名以上の来賓関係者が集いました。

日笠和彦さん(法務省矯正局)の基調講演「矯正の現状」では、「近代矯正の歩み」や「拘禁刑」「対話実践」について研鑽を深めました。昨年六月に懲役刑から拘禁刑へ移行され、それまでの二分類の処遇から、再犯をさせないために二十四課程に分類して矯正処遇がなされます。社会復帰を願い再犯をさせないための教誨師の役割を見直す機会となりました。

一日目、「薬物依存症から回復に必要なこと」～アディクションの反対はコネクション～松本俊彦さん(国立精神・神経医療研究センター)の講演では「薬物依存」について研鑽を深めました。

人間は薬を使う生き物。薬物依存に向かわしめるのは「孤独」であると。クスリの快楽ではない。つらい感情や厳しい関係を抱えて一人で頑張る人は、クスリ依存傾向になる。「孤独」にならないために、家庭でも職場でも寺院でも「安心して失敗や感情を語れる場」であってほしいと感じました。

二日目、「開かれた対話～オープンドialogとは何か?」斎藤環さん(精神科医・つくばダイアログハウス院長)の講演では、

「心の健康」や「開かれた対話(オープンドialog)」について研鑽を深めました。刑務所など収容施設では、被収容者の対話不足、自由な会話の制限があるので、心の健康を保つために「対話実践」が導入され始めています。印象的だったことは、薬物に対して「ダメ!絶対!」の啓発教育や向き合い方では「差別」「偏見」が残ってしまうということ。助言や客観的事実、正しささえも不要の「開かれた対話」を続ける難しさを感じました。

身柄の拘束と刑務作業だけをさせる懲役刑から、再犯させない教育、医療や治療、生活指導のある拘禁刑に変わりました。刑罰が軽くなったのではなく、「罪を償いながらいかに更生させるか」というのが目的です。大きく社会が変化する中、被収容者への「何のために生きるのか」という問いかけは、教誨師自身への問いかけでもあります。「いのち」の大切さ、対話と寄り添いがある教誨活動をめざしたいと思いました。



門徒推進員連絡協議会 第二回全員研修会

服部 捷子 (鞍手組 清光寺)

二月二十一日、福岡教区門徒推進員連絡協議会第二回全員研修会(公開講座)が開催され、ご講師に向曉浄念さん(大分教区院内組正立寺)をお迎えして「仏の心を音楽で」と題しギター説法をお聞かせいただきました。

コロナ禍以後こうした会には参加者の減少が目立ち、寂しい思いをしていましたが、当日は天気恵まれた事や、ギター説法といった内容とも相まって、コロナ禍以後、初めて参加者が百人に達したとの声を聞きホッとした思いでした。

ご講師は最初に礼讃文を引用され「私たちには生涯において三回の誕生日があります。

一つ目は この世に生を受けたとき

二つ目は ご縁に出遇ったとき

三つ目は お浄土に還ったとき

と言われ、中でも仏・法・僧の僧(サンガ)を大事にしながら、常にお慈悲の中に生かされている事を有り難く思わせていただきました」とお話しくださいました。

また、親鸞さまの文字を分解され、「いとしい、いとしいと言う鳥が木の上に立って見守ってくたさるお方が親鸞さまです」と言われた時に、ご縁に遇わせていただいていることをよるこびながらも、毎日の生活に振り回され全ての事象を当たり前と思ひ、生かされている事さえも忘れてしまふような私にも、しっかりと見守ってくたさるお方がいてくださる事を改めて有り難く思わせていただきました。

最後に浄土真宗の三つの合言葉として *おかげさま(南無阿弥陀仏のおかげさま 私の声の仏さま) *ありがとう *ごめんなさい(すみません) を申しながらの日暮らしをさせていただきましようと思ひました。

ギター説法との案内でしたのでギターの音色を楽しみにしていましたが、ギター演奏よりもご講師の時折みせるマジシャンさながらの動きをはさみながらの軽妙洒落な話術に引き込まれ、時計を見ることさえ忘れた楽しくてありがたいご法縁でした。

第四十四回少年連盟中央研修会「スプリングスクール」

中川 一晃 (御笠組 願應寺)

去る三月二十八日、三十日、本願寺にて「第四十四回少年連盟中央研修会「スプリングスクール」」が開催されました。全国各地から二十六名(福岡からは四名)の子どもたちが参加し、賑やかな三日間となりました。

今回の研修会では、班ごとに協力しながら本願寺や龍谷大学大宮学舎を巡るウォークラリーを実施しました。地図を見ながらチェックポイントを探し、仲間と相談しながら進んでいく中で、自然と会話も増え、初めは緊張していた子どもたちも次第に打ち解けていきました。

また、親鸞聖人のご生涯を題材にしたスタンツ(寸劇)発表にも取り組みました。限られた時間で自分の意見を伝え、友だちの意見を聞き合いながら一つの作品を作り上げていくことは難しさもありますが、それと同時に楽しさもあるように感じました。

全国から集まった仲間との出会いは、子どもたちにとって大きな刺激となりました。方言や地域の違いに驚き、笑い合いながら、お互いの個性を認め合い、共に過ごす尊いご縁を感じる研修会となりました。

二〇二七年は三月二十五日、二十七日に開催予定です。普段なかなかできない貴重な体験と、心に残る出会いが待っています。ぜひ、お子さんやお孫さんにご参加をおすすめいただければ幸いです。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



福岡教区「非戦・平和を学ぶ研修会」

原田 浩太郎はらだ こうたろう (志摩組しまぐみ 蓮照寺れんしょうじ)

二月二十六日、備後教区三次組西善寺ご住職であり、念仏者九条の会共同代表でもある、小武正教さんのご講演でした。

教団の非戦平和活動や憲法第九条、戦前や戦中の教団が戦争協力を行ったことへの反省を踏まえながらのお話でした。

印象に残ったのは、ご講師の祖父である小武憲正さんが、戦前のご法話の中でおっしゃった「上官の命令は直ちに天皇陛下の御命令として絶対服従。あここの犠牲的大精神こそ、世界の学者がよってたかつて研究してもわからない日本独特の忠義の精神であります」という一文です。

わが教団が現在のように平和を訴える背景には、過去の戦争協力への反省があり、戦前から戦中にかけて、日本の多くの宗教団体と同様に、本願寺派も国家の戦争政策に協力し、僧侶が出征兵士を激励したり、戦争を正当化するような教えを説いたりしたこともありました。その結果、多くの人々が戦争に動員され、尊い命が失われました。しかし、この一文を読むと、決してあってはならないことですが、当時の時代背景から戦争協力せざるを得ない状況下

であったのかもしれないと考えさせられます。

わが教団は、阿弥陀如来様の教えに基づき、すべてのいのちの尊さと平等を重んじています。そのため、戦争によって多くのいのちが奪われることに反対し、「非戦平和」を重要な課題として掲げています。このことは、憲法第九条の平和主義とも深く関わっています。

戦後、わが教団では歴史を検証し、仏教の根本である「不殺生」や「慈悲」と戦争協力が矛盾していたことを認め、深い反省を表明してきました。そして、二度と同じ過ちを繰り返さないために、平和学習や人権活動、核兵器廃絶運動などに取り組んでいます。

戦争の記憶が薄れつつある現代だからこそ、歴史から学び、命の尊さを大切にする姿勢を受け継ぐことが重要で、憲法第九条の理念とともに、平和な社会の実現に向けて一人ひとりが考え続ける必要があります。と、改めて考えさせられた研修会でした。

最後に、憲法第九条の改憲が長年議論されながらも、今現在まで実現されていないという現実を、しっかりと見つめていくべきだと思います。

司会台寄贈

ありがとうございます

はせがわ美術工芸様より、
司会台を寄贈いただきました。
誠にありがとうございます。



園見学並びに第二回園長・後継者研修会

学校法人三輪学園みなみ幼稚園

園長

渡邊 わたなべ

如心 にょしん

(夜須組 やすそ)

信覚寺 しんかくじ

昨年十二月十七日に、福岡教区保育連盟主催の行事として、「園見学並びに第二回園長・後継者研修会」を行いました。

研修会は、ご講師として東京科学大学教授の中島岳志さんをお迎えし、十六園、十八名の方々が参加されました。会場は西嘉穂組・安楽寺で、隣接する、いぎすれんげ幼稚園の見学もさせていただきまし

た。

研修会の講題は「利他とは何か」だったのですが、講義がはじまるにあたって中島さんは「私がここで語る



。利他“は、浄土真宗の用語としての利他とは違うかもしれませんが、どこかで響きあうものだとも思っています。みなさんの中で翻訳しながらお聞きください”という趣旨で前置きされました。

とても大事な押さえだと感じるので。というのも、保育の現場には、たくさん子どもたちがいます。一人ひとり、大切な子どもたちです。だからこそ、それぞれの子どもに、ちゃんと伝えることを語っていかねばなりません。そこで大切になるのが「翻訳」です。同じく日本語を話しているとしても、正しく話しているとしても、子

どもに伝わらない場合があるのです。本当にそれが目の前の相手に伝わっているのか、保育の現場では、いつも吟味と工夫が求められます。また講義の中で、次のように語られました。

「僕はね、教育って、“未開封の手紙”を渡し続けるような行為だと思っ

先生が子どもに何かを伝えたり教えたりしようとする、でもそれが即座に子どもに伝わるとは限りません。あるいはそれが「利他のつもり、よけいなおせっかい」になっているかもしれないのです。

でも、たとえその時に伝わっていないとしても、そのメッセージは“未開封の手紙”として、子どもの中に残り続け、その子の時間の経過・経験・成熟を待つて、いつか開封される機縁がある。ふいにその時は来る。そのように信じて、“未開封の手紙”を渡し続ける行為、それが教育だということです。中島さんにしかできない、とても印象に残る表現でした。



一

法

言

話

いのち

ゆく

さき

「命の行先」

わだ

いずる

いとそ

みょうきゆうじ

和田 出(怡土組 妙休寺)

私たちはこの命を終えると一体どこへ行くのでしょうか。誰もが一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。

ある男性から聞いたお話です。この男性には幼馴染の親友がおられました。お互い両親の影響で、よく子どもの頃から一緒にお寺に参り、仏さまのお話を聴聞されていました。大学卒業後、男性は地元企業に就職し、親友は遠く離れた県外の会社に就職されました。

それでも毎年お盆とお正月には帰省しました。お盆はお寺に参り、お正月は毎年男性とお酒を酌み交わしました。そんな二人も六十代半ばとなった頃、親友に末期のガンが発覚したのです。その知らせを聞いた男性は親友が入院している病院へ飛んでいきました。

病室へ入るとそこにはやせ細り変わり果てた親友の姿がありました。何と声をかけていいかわかりませんでした。しばらく沈黙の時間が続きます。二人で昔を懐かしみました。結局気の利いた言葉はかけられず、じゃあ、と病室を後にしようとしたとき、親友がそつと口を開きます。「おい、たまにはお寺で聴聞はしよ

るとか？」と。男性は、なんでそんなこと聞くんだろうと思いつながら「たまにしよるよ」というと、しばらく間をおき、「そうか…じゃあ、また会おうな」と一言、声を震わせながらおっしゃったんです。先が長くない親友が、どの場所でもまた会おうと言っているのか、すぐにわかりました。そして男性も涙をこらえながら「おう…また会おうな」そう言つて病室を後にしたのです。二人がまた会おうと約束した場所は、現世でなく、お浄土という仏さまの世界でした。

「この身は、いまは、ときはまりて候へば、さだめてさきだちて往生し候はんずれば、浄土にてかならずかならずまちまいらせて候ふべし。」親鸞聖人が、お弟子さんに送ったお手紙の中のお言葉です。

阿弥陀如来さまは、つらく厳しい別れを抱えていかなければならない私たちを、必ず浄土へ連れていくと南無阿弥陀仏というお念仏となつてご一緒くださっています。お浄土はすべての命がまた会える世界です。私たちは、お浄土という未来に照らされながら、今を歩ませていただいているのです。

南無阿弥陀仏

ホームページ・SNSもどうぞご覧ください

ホーム
ページ→



You
Tube→



LINE→
(ID:100xlzmt)



インスタ
グラム→



2026 (令和8) 年度 本願寺福岡教堂・福岡教区教務所 職員職務分担表

名前	教堂	教区	実践運動	教化団体等	庶務	外部団体等
 ふじはる み ほ 藤春美穂	在家免物・申請交付 宗教法人関係事務 教堂委員会	住職総参拝 寺院諸問題対応 教区会・常備会	同朋運動部	若婦人会連盟 仏教婦人会連盟 (九州大会企画) 仏教婦人会連盟	職員管理庶務	筑紫女学園非常勤講師 筑紫女学園関係
 み やけ な お ゆ き 三宅直幸	財産管理委員会 備品調整・管理	将来構想検討委員会 選挙管理委員会	寺院機能推進部 常任委員会 教区委員会	保護司会 仏教婦人会連盟 (九州大会総務部) 仏教青年会連盟 布教団青年布教使の会 布教団 子ども・若者(縁づくり) 推進委員会		福岡県同宗連
 にしやま よ し ま さ 西山是匡	防犯・防火管理	選挙管理委員会(補) 護持口数調整委員会 得度講習会 (得度審査・教師教修) 組長研修会 組長会 会計事務	時局問題対策協議会 非戦・平和部	スカウトクラブ 仏教婦人会連盟 (九州大会行事部) 講社連盟 寺族婦人会連盟	PC等事務機器 願記・進達	職員会計
 おおしま こう かい 大島光海	荘厳・営繕管理 鎮仰講座 恒例法要 会計事務	勤式関係 寺院振興対策委員会	広報部	仏教婦人会連盟 (九州大会広報部) 仏教青年会連盟 本派矯正教化連盟 福岡支部	会場使用・管理 寺院台帳・備品等名簿管理 ホームページ	九州管区教誨師連盟 福岡教誨師会 全国教誨師連盟
 かさ ぎ けん と 笠木憲人	書籍管理販売 仏前結婚式	住職総参拝 災害対策委員会 選挙管理委員会(補)	門信徒教化部	仏教婦人会連盟 (九州大会会場部) 門徒推進員連絡協議会 ビハール福岡・ライン福岡 社会福祉推進協議会 保育連盟 少年連盟 門徒代表者協議会	公用車維持管理 願記・進達	
 たけうち ちは ら 竹内智流	営繕管理(補) 在家免物・申請交付(補) 衣体管理 荘厳管理(補) 鎮仰講座(補) 恒例法要(補)		広報部(補)	仏教婦人会連盟 (九州大会会場部補) 仏教青年会連盟(補) 保護司会(補)	公用車維持管理(補) 宗派交付扱い管理(補) 会場使用・管理(補) PC行事日程管理 書類綴整理・管理 収状発信等事務(補)	筑紫女学園関係(補)
 まえだ ま り こ 前田万里子 (派遣)	来客・電話対応 書籍管理販売(補) 在家免物・申請交付(補)				収状発信等事務(補) 書類綴整理・管理(補) PC行事日程管理(補)	

石川顕真 ※4月14日より当面の間休職

新職員の挨拶	三宅直幸	この度、和歌山より福岡教区教務所へ赴任いたしました。新たな地での尊いご縁に感謝し、皆様の活動をお支えできるよう業務に取り組んでまいります。至らぬ点も多いですが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。
	笠木憲人	この度、安芸教区教務所・本願寺広島別院より赴任いたしました、笠木憲人と申します。安芸教区では8年間務めさせていただきまして、色々なご縁に出遭わせていただきました。福岡教区内のご寺院、ご門徒の皆様の為に尽力して参りますので、宜しくお願い申し上げます。
	竹内智流	この度、4月から本願寺福岡教堂・福岡教区教務所で臨時職員として勤務しております。3月末まで、中央仏教学院の勤式課程で学んできた経験を活かせるように奉職いたします。

退職いたしました	佐竹一心 (福岡教区 遠賀組 恩光寺)	2026 (令和8) 年3月31日付けで、退職いたしました。大変お世話になりました。今後は、自坊にてご法義繁盛に精進したいと存じます。
----------	------------------------	---



おとこ
身と心
を
まも
る

編集
後記

今年も敗戦の日を迎えます。翌日にお盆法要とあわせて全戦争犠牲者追悼法要をお勤めしています。釈尊の「己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」をいつも心に留めておきたいと思う日々です。

発行責任者
浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 阿武 正法
〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2
電話:092 (771) 9081